

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 若松中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようなっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

若松中央 小学校 「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成26年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成27年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

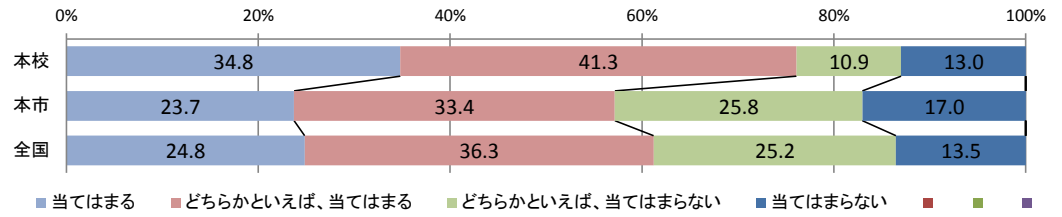
② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・国語Aの「言語についての知識・理解・技能」の分野では大きな差はないが、「読む能力」「話す・聞く能力」の分野では、全国、県共に大きな差がある。 ・無回答率は全体的に低く、最後まであきらめずに問題に取り組む姿勢が見られる。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。	
	努力が必要な問題	・登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・国語Bの「書く能力」「読む能力」の分野では、いずれも全国、県共に大きな差がある。 ・無回答率は全体的に低く、最後まであきらめずに問題に取り組む姿勢が見られる。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・目的に応じ、中心となる語や文を捉える。	
	努力が必要な問題	・登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・算数Aの「数量や図形についての技能」の基礎的な分野では、大きな差はないが、「数量や図形についての知識・理解」という応用の分野では一部全国、県共に大きな開きがある。 ・無回答率は全体的に低く、最後まであきらめずに問題に取り組む姿勢が見られる。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・繰り上がりの2位数の加法の計算、末尾の位の揃っていない小数の減法の計算。	
	努力が必要な問題	・円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底辺の大きさを求める。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・算数Bの「単位量当たりの大きさを用いた計算」の分野では、全国、県共に上回っているが、「数学的な考え方」の分野では全国、県共に大きな開きがある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・単位量当たりの大きさを用いて、目的に応じた買物の仕方を選択し、代金を求める。	
	努力が必要な問題	・四捨五入して、千の位までのおよその数にして計算する。	
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・「観察・実験の技能」の分野では、全国、県共に大きな開きはないが、「科学的な思考・表現」の分野の一部では、全国、県共に大きな開きがある。 ・無回答率は全体的に低く、最後まであきらめずに問題に取り組む姿勢が見られる。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察して分析できる。 ・メスシリンダーの名称を理解している。 	
	努力が必要な問題	・植物の成長に必要な養分のとり方について、調べた結果を視点をもって考察して分析できる。	

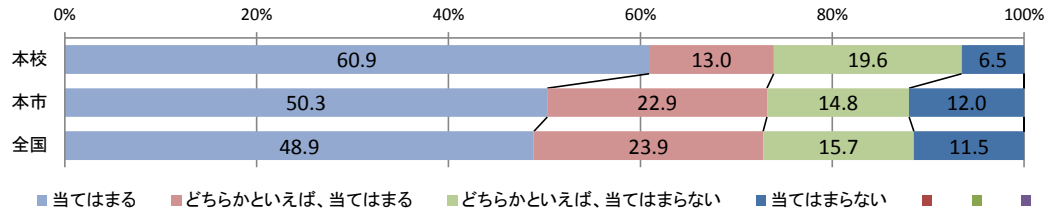
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

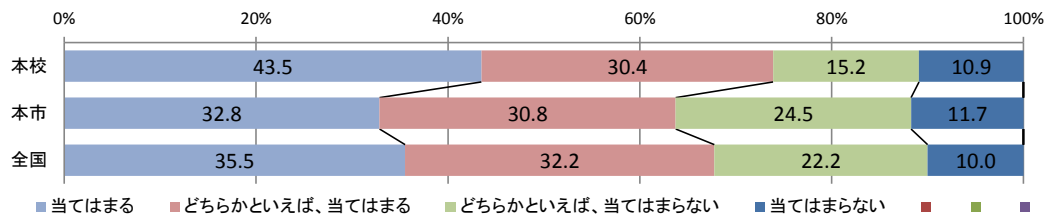
48
国語の勉強は好きですか。



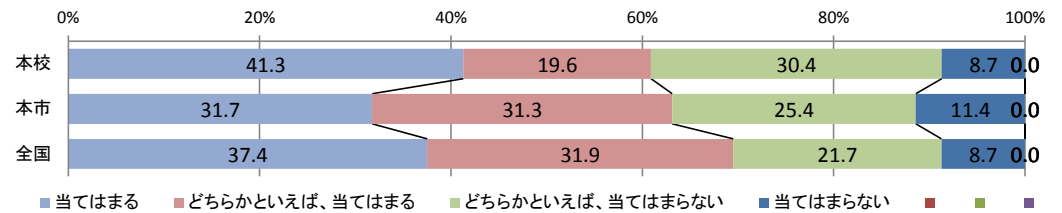
51
読書は好きですか。



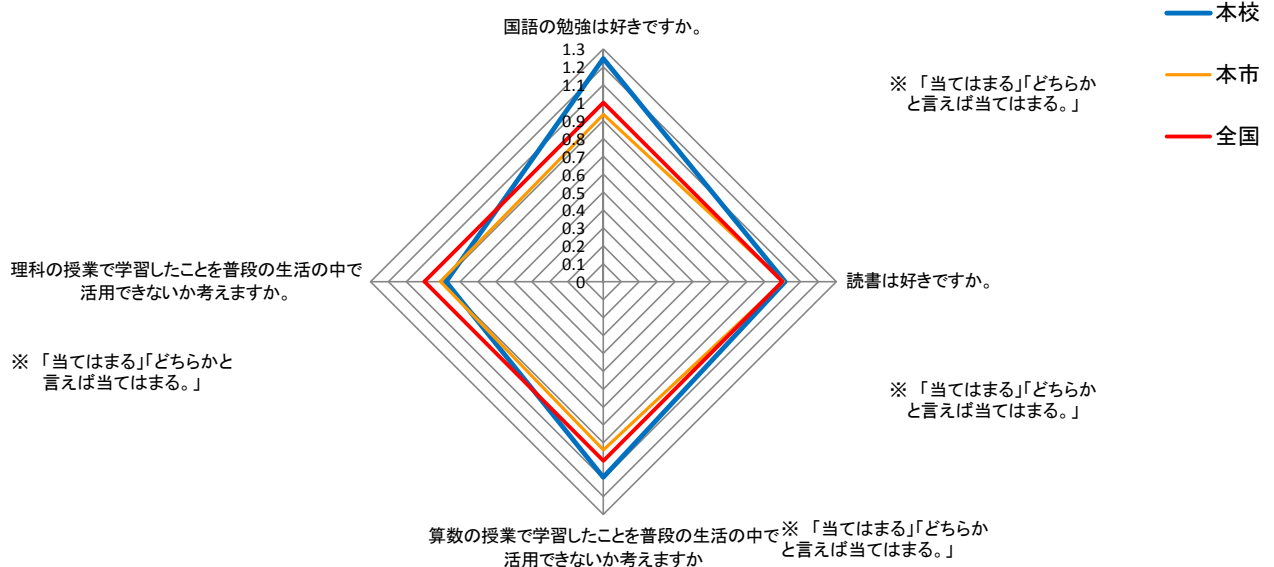
63
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



73
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

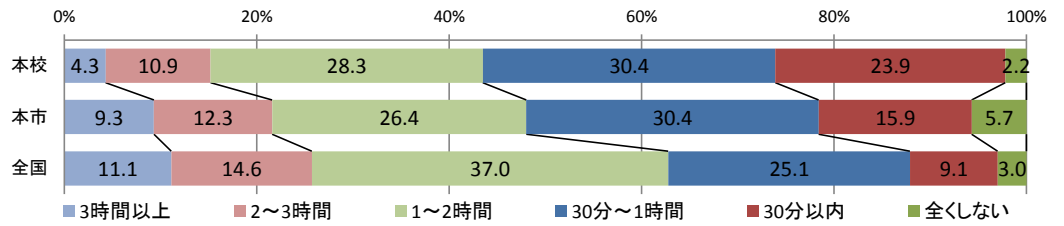
- ・国語の勉強が好きと答えている児童は、年度毎に全国平均を上回ってきている。
- ・読書は全国平均、市平均共に上回っており、朝読書の効果が出ている。
- ・算数科の学習を普段の生活で生かそうとする意識が高まっている。
- ・理科の学習は、実験・観察などの体験が各単元の理解の深まりとして、あまり生かされていない傾向にある。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

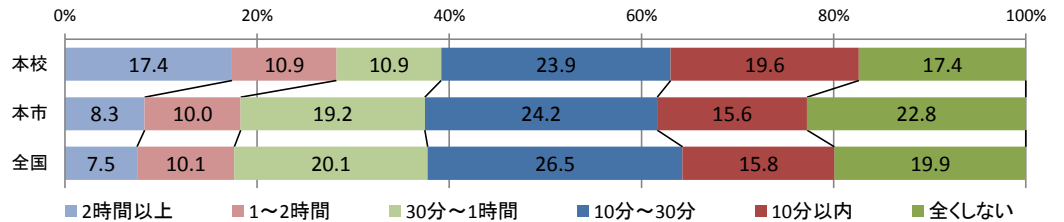
① 家庭学習習慣に関する調査結果

質問番号
質問事項

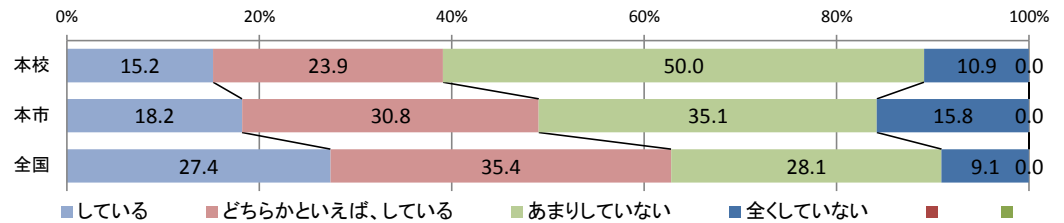
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



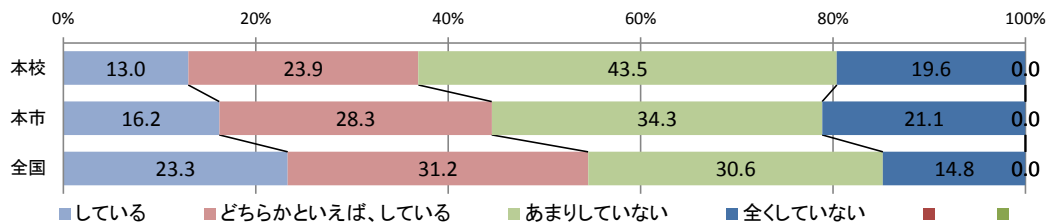
16
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)



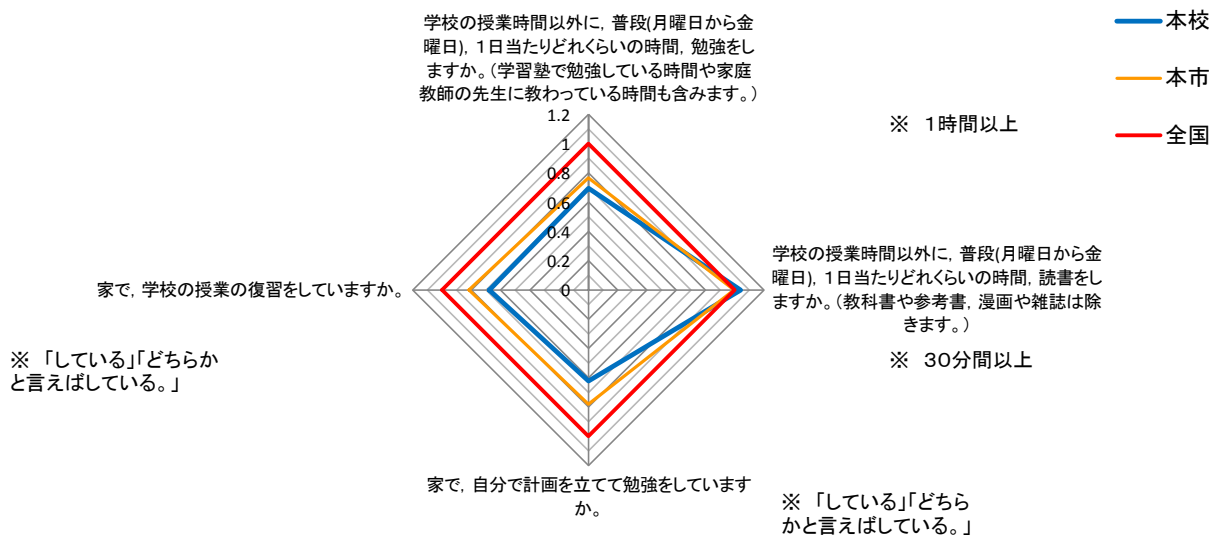
20
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



23
家で、学校の授業の復習をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

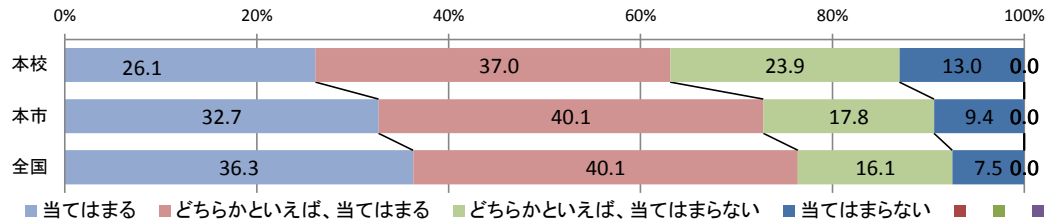
- ・課題や自主学習は継続して取り組みを続けてきているが、実質の家庭学習の時間はそれほど確保されていない。
- ・読書に対する抵抗感はなく、家庭での読書の時間も十分に確保できている。
- ・家庭学習の時間が確保されていないのと同様、その内容における計画性もほぼ薄れている。
- ・予習復習の中で、特に重点化を図りたい復習に対する意識が低い。

④ 生活習慣等に関する調査結果

質問番号
質問事項

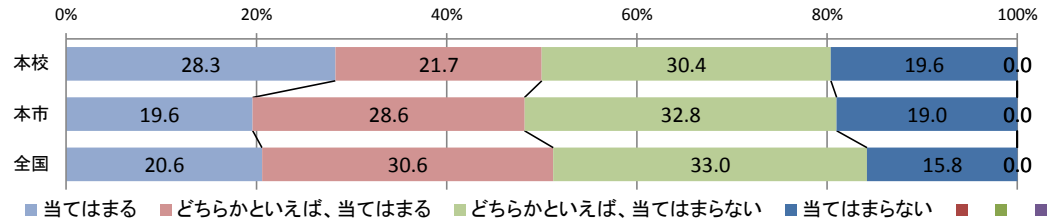
6

自分には、よいところがあると思いますか。



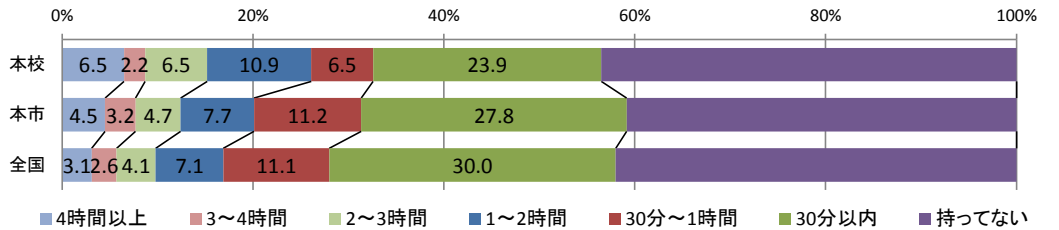
7

友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。



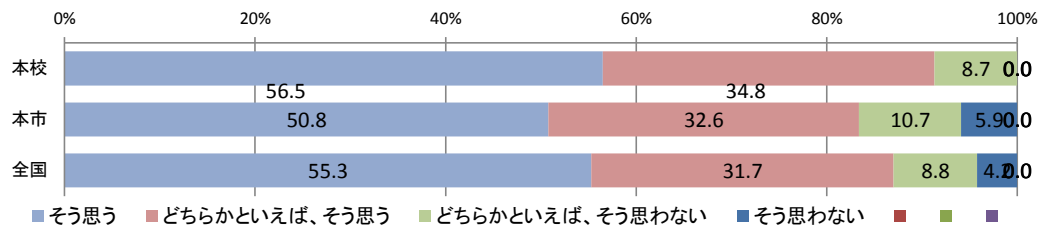
12

普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます。)

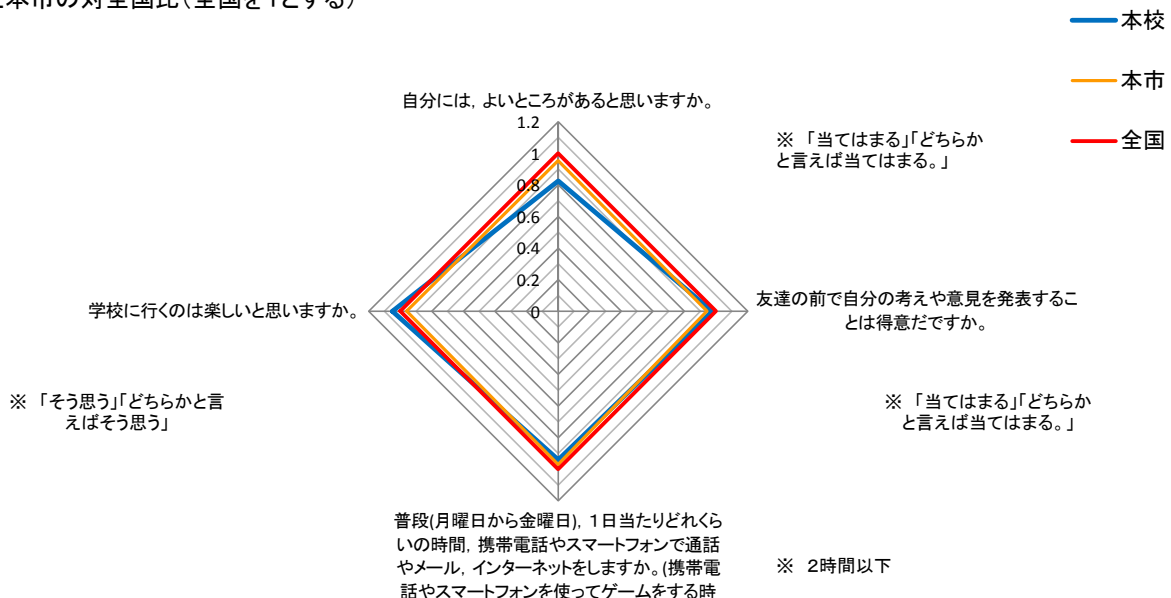


24

学校に行くのは楽しいと思いますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

- ・自尊心は全国、市よりもやや低い傾向が見られる。
- ・人前で自分の考えや意見を発表することに対しては、それほど苦手意識を持っていない。
- ・携帯、スマートフォン等に接する時間が長い児童が一部に見られる。
- ・学校に楽しく来ることができている児童が多い。友達や先生と良い関係が築けている傾向にある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・朝の十分間読書(月曜日から金曜日まで教師も教室で子どもと共に全校一斉に取り組む。)
- ・音読暗唱タイムを毎日設定し、校長による表彰を行う。
- ◎書くことの習慣化(全校での取組)
- ・学習のめあてとまとめを書く。
- ・学習の最後3分間に学んだことを「振り返りタイム」として書くようにする。
- ◎話し合い時間の確保(全校での取組)
- ・考えたことを表現したり、説明したりする活動を各教科で取り入れる。
- ・授業中に、5分間話し合い、5分間書く時間を取り入れる。(5・5タイムの設定)
- ◎過去問題・アシストシートを使った弱点単元の克服(高学年での取組)
- ・12月の国語科算数科における習熟度別少人数学習で、過去問題・アシストシートを活用し、本校における弱点単元の克服を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題と家庭学習の定着化
- ・家庭学習ノートの活用(全学年毎日の宿題の中に家庭学・自主学として欠かさず設定)
- ・家庭学習時間の設定(学期毎に若松中央小家庭学習のすすめを全家庭に配布)
- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を学期毎に集約、担任が「家庭学習約束宣言シート」や「わたしの読書記録」を確認する。
- ・家庭学習マイスター賞への応募(担任が集約し、校長が判断する。)
- ・冬休みや春休みの宿題に全国学力状況調査過去問題、CRTアシストシート、活用する力を高めるワークを活用する。
- 学校便りや家庭教育学級の研修を通じて、生活習慣の見直しの協力依頼。保護者への「ノーテレビ、ノーゲーム、読書の日」の周知、懇談会や家庭訪問を通じて、生活や学習習慣の見直しの協力を仰ぐようにする。